2016年3月25日発行の

鍼灸柔整新聞に掲載されました!

医接連携ネットワーク協会発足

柔整師と整形外科医の連携強化へ

養成コース開講やIT駆使した支援

中尾 充氏

「医接連携ネットワーク協会」の設立記念セミナーが3月13日、東京都内で開かれた。同協会は、整形外科医と柔整師がお互い役割を分担しながら一つのチームとして患者の治療に取り組む「医接連携」が今後求められるとし、そのネットワークの構築・強化を図る目的で3月1日に設立した。運営は株式会社健生（中尾充代表取締役社長）と株式会社メディカルストラテジー（杉本和隆代表取締役）が共同で行い、連携に必要な医学的知識等を学ぶ講義や病院実習を含む認定養成講座を開講するほか、困った症例等についてウェブ端末から医師に相談できるコミュニケーションツールなどを搭載した独自開発のITポータルシステムを用いて連携支援に当たる。

設立記念セミナー当日は、100名を超える参加者が集まった。まず、運営担当者の健生サポート事業本部部長の小林靖氏が概要について説明した。その中で柔整師への独自の調査結果に触れ、7割以上が医師と連携が取れていないと回答した上、そのうち65%が「必要だけれど、どうしたら良いか分からない」と答えたと紹介。連携を取ることができれば、画像診断や血液検査などの依頼が可能となり、患者にも安心を与えられるとした。また、東京都足立区の苑田会人工関節センター病院との間で実践している「医接連携」の先行事例を挙げ、連携時の柔整師が担っている範囲やネットを介した柔整師と医師の具体的な「会話」などを紹介。「当面は足立区を中心に実績を積み重ねていきたい」と参加者に協力を呼びかけた。その後の記念講演は、同病院の病院長でもある整形外科医の杉本氏が登壇。関節疾患治療を専門とし、一般患者からプロスポーツ選手まで年間1000件以上の人工関節手術を行う杉本氏は、最新の人工関節手術を解説したほか、整形外科医の現状、整形外科医から見た柔整師について語った。「医接連携」に関しては、「術後のスポーツ選手には、リハビリとトレーニングの間に関節の拘縮をほぐしたり、筋肉が萎縮するのを防いだりするつなぎの段階があり、柔整師が関われる部分がある」といった具体例を交えて展望した。最後に中尾氏が、「医師との連携は、柔整師が次のステージに上がるために必要になる」と締めくくった。